

問題 一

問一 ア 背丈 イ 策 ウ 比較

問二 強

問三 芸術や文化を格差なく享受できるような公益性をもち、皇室文化の至宝である正倉院宝物を公開することで日本の国民の心を癒すという意義。

問四 正倉院展が特別展として大がかりな広報を通じて集客される収益事業と化し、公益性を失い、高額な料金を払える人しか観覧することができなくなることを。

問五 誰もが平等に芸術や文化を享受できる公益性という理念のもと、正倉院の構内に、低料金で観覧でき、宝物を常に良好な状態で収蔵展示できる常設の公開施設をつくり、正倉院に関わる本質的なことを理解できるような展示内容を企画すべきだと主張している。

問題 二

問一 身繕いが際立ってきちんとしており、誰に対してもはっきりものを言い、頭の回転がはやくてその場の雰囲気やさつと見極め、気の利いた発言のできる、さまざまな能力をもった、わたしと共通点がひとつも見当たらないながら親切にしてくれる人。

問二 わたしは、職場の雰囲気に対する愚痴めいた自分の発言が聖の気分を損なったのではないかと思っていたのに、損なうどころか、聖はフリーランスで校閲者をやってみるという考え方をわたしに伝えてくれたことが、思いがけなかったから。

問三 会社を辞める、自分ひとりで校閲の仕事をする、ということなど一度も考えたことがなかったのに、聖にそのように言葉にされることによって、いともたやすく、自分が以前からそんなことを考えていたように感じてしまう、主体性のなさ。

問四 家で校閲の仕事をするのは充実したものに思えるが、安定した仕事があるという保証がないことに不安になっていたり、聖から、局長の評価の言葉や、もっとやってくれたら助かると言われ、なおかつわたしの不安を押しつけるように後押しをする言葉も言ってもらえて安心したから。

問五 「信用」は、一方的でそこには相手がいない感じがし、ちょっとした加減で信用したりしなかったりするのに対し、「信頼」は、自分から相手に何かをちゃんと手渡していると感じられ、消えることはなく、人生において仕事を大切にし、敬意を払う姿勢に対して向けるものである。

問題 三

問一 ア 鳥羽殿にいらっしゃった時

イ どうしてこんなに遅いのか

ウ ああ、素晴らしかったことだなあ

エ ただ御所に参上する者を言っているのだろう

問二 他の人に劣るまいと念入りに支度した姿を事前に見られると珍しくなくなり、驚いてもらえないから。

問三 長く待たされた上に、従者が行列に参加している人たちの様子を詳しく報告してくるから。

問四 源行遠は行列に参加しようと思い、出ていく時機を決めるために様子を見てこいと命じたのに、愚かな従者が取り違えて、最後まで行列に見とれて呼びにこなかったため、結果的に参加できなくなったただけだということがわかったから。

問題 四

問一 だから竹を描くには、必ずまず成長した竹を心の中に思い描きなさい。

問二 集中して素早く筆を動かさないと、せっかく心の中に思い描いた竹の真の姿が見失われ、うまく描くことができなくなるということ。

問三 かくのごとし

問四 いくら心の内で物事の本質を理解したつもりでも、それを捉え出し形にする練習が足りず未熟であれば、本当に分かったことにはならないということ。